

お知らせ

症例検討会のご案内

北九州市立医療センターでは、地域の医療従事者の方々と一緒に医療技術向上のため、下記のとおり症例検討会を実施しています。

症例検討会名・開催日	時間・場所
■乳腺テクニカルカンファレンス 毎月 第2・4月曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
乳腺外科・放射線科・病理診断科の医師、放射線技師、臨床検査技師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■呼吸器カンファレンス 毎週 火曜日開催	時間：17時～18時 場所：別館6階 講堂
呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■消化管カンファレンス 毎月 第3木曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
消化器内科・消化器外科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■周産期症例検討会 奇数月 第3水曜日開催	時間：19時～20時30分 場所：別館6階 講堂
産婦人科・小児科・小児外科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	

※日程は都合により変更・中止になる場合がございます。事前に医療連携室へご確認の上、ご参加いただければ幸いです。
検討ご希望の症例がございましたら是非ご持参下さい。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

研修会のご案内

日程	テーマ	講師
4月27日(木)	急性期病院から在宅へ	統括部長 山野 裕二郎 地域医療連携推進担当係長 播磨 由美

▶場 所：北九州市立医療センター 別館6階講堂
 ▶時 間：18時30分～(1時間～1時間30分程度)

【問合せ先】
 北九州市立医療センター 医療連携室 TEL.093-533-8660(直通)



第65号

平成29年4月28日発行

発行人：北九州市立医療センター

〒802-0077

北九州市小倉北区馬場2丁目1-1

TEL.093-541-1831 FAX.093-533-8693

<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>

＜本院の基本理念＞
 わたくしたちは公共的使命を自覚し
 心のこもった最高最良の医療を
 提供します

INDEX	
就任・退任のごあいさつ	1
新主任部長紹介	4
新任医師紹介	5
トピックス・サンウルブス来たる	7
看護の広場・4階北一般病棟	8
登録医のご紹介	9
医療連携室だより	10
お知らせ・症例検討会・研修会のご案内	





| 院 | 長 | 就 | 任 | 挨 | 拶 |



北九州市立医療センター院長
なか とくひろ
中野 徹

院長就任にあたりご挨拶申し上げます

豊島前院長、光山元院長の指導力と機構改革で、北九州市立医療センターの方向性の枠組みはほぼ設定されてきました。担うべき医療分野は整理されております。「がん医療」「産科医療」「生活習慣病」の3つです。「がん医療」に関しては地域がん診療連携拠点病院として質の高い鏡視下手術をはじめとする最新がん治療に加えて、放射線部門のさらなる整備、外来化学療法センターの充実を図り、がんの集学的治療を高いレベルで保証し、さらに心のケアに配慮したがん看護外来、緩和ケアチームの充実を図ります。

「産科医療」は総合周産期母子医療センターの整備を推進します。幸い教室の理解と支援の下で若い人材にも恵まれており、今後もこの医療圏の産科医療を高度な専門性で支えることが期待されます。

「生活習慣病」は糖尿病、循環器を含め質の高

い心臓血管外科手術、脊椎、肩関節を中心とした先進的な整形鏡視下手術を特徴に地域医療に貢献してまいります。いずれも専門性に裏打ちされた質の高いチーム医療を通して横断的な医療を推進していきます。この他にも「感染症指定機関病院」「災害拠点病院」としての役割を自覚し整備を図り、危急時に備えます。

地域医療構想の中で医療機関の機能分化が進む一方、いずれの総合病院もすべての科の人材整備確保は困難であり、多くの医療機関との連携がさらに必要となります。地域での医療情報の共有という意味での患者情報のネットワーク化を進め地域医療を支える地域医療支援病院としての役割を実践してまいります。皆様のご理解、ご協力お願いいたします。



| 院 | 長 | 退 | 任 | 挨 | 拶 |

退任のご挨拶

前北九州市立医療センター院長
とよしま さとし
豊島 里志

3月31日で定年退職を迎えました。

4年間の院長在任中大変お世話になりました。ありがとうございました。

この間、医療界では次の時代に備えてさまざまな試みが提案され、今あるべき姿を議論しています。今後の病院の運営は個々の病院の都合や意志だけでは成立せず、地域の中でのそれぞれの病院の役割を明確にし

て地域の医療提供体制の中で自らを適切に位置付けていかなくってはなりません。とりわけ市立病院は果たすべき役割が一層明確になっていきます。市立医療センターは地域医療支援病院として地域の医療機関と連携してその役割を果たしていくことになります。

4月から新しい体制が動き出します。今後も市立医療センターをどうぞよろしくお願いいたします。



| 総 | 括 | 副 | 院 | 長 | 就 | 任 | 挨 | 拶 |

総括副院長就任にあたって

総括副院長
まき へいこ
眞鍋 治彦

本年4月1日付で北九州市立医療センター総括副院長を拝命しました眞鍋治彦です。1980年に熊本大学を卒業し、福岡大学麻酔科学講座に入局。その後1993年に麻酔科主任部長として当医療センターに着任しました。以来 23年間、手術麻酔を中心に、疼痛・緩和医療、救急・災害医療、研修医教育に携わってまいりました。

ところで、当センターは、「充実したがん診療」、「安心できる総合周産期母子医療センター」、「地域に根ざした生活習慣病のケア」の3つをテーマとして掲げています。がん医療では、高度な内科・外科治療に加えて、放射線治療の充実、外来化学療法センターの運営、緩和医療の提供など、総合的ながん治療を展開しています。周産期分野では、北九州医療圏のリスクの高い分

娩・新生児医療に24時間体制で取り組んで成果を上げています。生活習慣病の分野では、最新の内視鏡手術で行う整形外科を初め、糖尿病内科、循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科などに専門医を配置して特化した高度医療を行っています。

今後は、これまでの活動に加えて、病院の理念に沿って地域住民の方々が安心して暮らしていけるよう、広域の医療機関と連携し、変えていくべきもの、変えてはいけないものをしっかりと見極め、さらに質の高い医療を提供することを目指します。そのためには、われわれ医療センター職員が、物心両面において満足感と幸福感を持って仕事に従事できる病院であることが必要だと感じております。



| 総 | 括 | 副 | 院 | 長 | 退 | 任 | 挨 | 拶 |

お世話になりました

前総括副院長
おの しげお
小野 稔

私が1人で当院に赴任したのは市立小倉病院時代の1983年11月でした。当時は放射線科医が不在で、先々代松浦教授の命で、CT導入を契機に放射線科を立ち上げることが私の仕事でした。血気盛んな卒後7年目の若輩者であったため、当時の事務官、スタッフの皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

CT、超音波、血管造影、塞栓術と忙しい毎日でしたが、最大の喜びは、自分が診断に関与した症例のほとんどが当院で最終診断が得られた点です。暖かく見守り育ててくださった外科、内科系、病理始め医師の方々には心から感謝申し上げます。また、忌憚のない話ができた看護部、診療支援部の薬剤師・技師の皆さまにも厚く御礼申し上げます。このような恵まれた環境のおかげと医局からの優秀なスタッフのサポートで、年々業務も増え、今では常勤医7名、レジデント2名の大所帯となり、感慨深いものがあります。

2008年からは副院長を拝命し、医療情報管理室長、

“連携ネット北九州”の立ち上げ、医療連携室長、診療支援部部長を、また総括副院長では医療安全管理室長を担当してまいりました。日々の診療に加え、病院全体の運営に携われたことは大変光栄なことで、このような機会が得られたことを感謝いたしております。さらに、小倉医師会監事として地域医療の諸問題を勉強させていただいたことも貴重な財産となりました。

これからの数年は当院にとって非常に重要な時期です。北九州医療圏での当院の担うべき役割を再確認し、独立行政法人化に向けて全職員一丸となって現状を分析し、病院機能のすべてを見直す必要があります。地域の先生方の暖かいご支援と、当院の優秀なスタッフの“輪”で必ずこの過渡期を乗り越え、今以上に“心のこもった最高・最良の医療”ができるようになることと確信いたしております。

最後に今までご指導、ご支援を賜った皆さまに重ねて感謝申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。



| 副 | 院 | 長 | 就 | 任 | 挨 | 拶 |

副院長就任にあたって

副院長
岩下 俊光

この度、副院長を拝命しました外科の岩下俊光です。昭和63年（1988年）4月に当院の前身の北九州市立小倉病院外科に赴任しました。当時は古い病院で廊下に穴があいていたり、ワンフロア36名や24名の病室があり、野戦病院のようでした。



| 副 | 院 | 長 | 就 | 任 | 挨 | 拶 |

副院長就任にあたって

副院長
浦部 由利

このたび副院長を拝命いたしました。市立医療センターに1995年4月に赴任し22年目となります。昨年統括部長を拝命し、病院内の仕組みにより関与するようになりました。十分にその責務を果たせたものか自分自身わかりませんが、昨年に増して皆さんと協力して医療センターが市民そして地域の医



| 統 | 括 | 部 | 長 | 就 | 任 | 挨 | 拶 |

統括部長就任にあたって

統括部長
三木 幸一郎

た。平成3年（1991年）に新しい病院ができ、名称も北九州市立医療センターとなりました。19年間外科に在職後、2007年に若松病院に赴任し、2011年4月に医療センターに戻ってきました。その間、医療環境は変化し、地域医療構想の策定や地方独立行政法人化への準備などで変革の時期ですが、地域の医療機関の皆さま、市民の皆さまに最高最良の医療をご提供できますように微力ながら全力を尽くす所存ですので、今後共どうぞよろしくお願い申し上げます。

院・病院の先生方の信頼を獲得し、さらに高いレベルを目指すように全力を尽くして努力してまいりたいと存じます。皆さんといっしょに頑張りましょう。自分自身あまり取り柄はないのですが、基本的姿勢はポジティブシンキングです。よく考えてどうやったら目標に到達できるかを常に目指しています。ご協力をお願いいたします。なお昨年度は循環器内科主任部長を兼任しておりましたが、この春より有村賢一医師が循環器内科主任部長に就任いたしました。循環器診療はもちろん続けますのでよろしくお願いいたします。

4月より統括部長を拝命いたしました三木幸一郎と申します。2010年より内科主任部長として主に肝疾患診療を担当しておりました。今後は内科の枠を超えて病院全体の診療の質向上に努力したいと思います。当院が行っている診療の把握および行っていくべき診療の検討には、診療情報の質の管理と分析が欠かせません。この領域を通じて地域の医療に貢献していきたいと考えています。よろしくお願い申し上げます。



| 統 | 括 | 部 | 長 | 就 | 任 | 挨 | 拶 |

統括部長就任にあたって

統括部長
尼田 覚

このたび統括部長を拝命いたしました。2009年に当院に赴任以来、婦人科腫瘍を中心に産婦人科の診療に邁進してまいりました。当院の産婦人科は産科診療とがん診療の2つを中

心として地域の2、3次医療を担っております。昨今の産婦人科医師不足は深刻で、次第に顕性化しつつあります。そのような環境でありながらも地域での質の高い医療を提供できるように院内、院外に対して役割を果たしていく所存であります。また産婦人科のみならず病院全体の運営に対して微力ながらできることがあればお手伝いさせていただきたいと存じます。今後ともよろしくお願いいたします。



| 統 | 括 | 部 | 長 | 就 | 任 | 挨 | 拶 |

統括部長就任にあたって

統括部長
渡辺 秀幸

このたび統括部長を拝命しました放射線科の渡辺です。2013年4月に当院へ着任して以来4年の間、地域の先生方にはCT/MRIなどの画像検査紹介や放射線治療目的の患者

さん紹介などで大変お世話になっています。中でも、インターネットを利用した医療連携システムである「連携ネット北九州」での紹介症例数は年々増加しており、さらに利便性の向上が予定されています。今後は放射線科のみならず、病院全体が地域の先生方の益々の信頼を得られるよう努力する所存ですので、よろしくお願いいたします。



| 看 | 護 | 部 | 長 | 就 | 任 | 挨 | 拶 |

看護部長に就任して

看護部長
大津 博恵

今年度4月1日より、前任の山本部長の退職に伴い看護部長を拝命いたしました大津博恵です。1984年、北九州市立小倉病院時代に入職し、医療センターを経て今日までこの病院と一緒に歳を重ねてきました。

今回、看護部長という職責の重さに大きな戸惑いを感じて



| 看 | 護 | 部 | 長 | 退 | 任 | 挨 | 拶 |

退職にあたり

前看護部長
山本 智美

この度、3月末に退職を迎えました。関係医療機関の皆さまにはたくさんの温かいご指導をいただきましたことを、この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

昨年4月に着任して以来、慌しくあつという間の一年でした。医療・看護サービスの質とともに効率性が求められ、多くの課題を抱えていましたが看護管理を楽しみながら過ごした一年でした。私事になりますが、昭和58年に市立小倉病院（現、

いますが、1日も早く仕事に慣れ役割が遂行できるよう努力していきたいと思っています。

超高齢化社会を迎え、急性期医療の現場では緊急・重症患者さんの命を救うこと、そして地域医療機関や在宅に向けて移行できる状態になるまで回復を援助することが大きな役割となります。「つなぐ看護」の実践のために地域の皆さまとの連携推進を図っていききたいと思います。関係医療機関の皆さまのご指導をよろしくお願いいたします。

医療センター)に入職して以来、看護師としての大半をこの病院で過ごしてきました。周囲の人に恵まれ多くの皆さまに支えられ、大過なく勤務できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

医療を取り巻く環境は大きく変化し、病院の置かれている状況は厳しさを増しています。社会の変化に迅速に対応し、新しい挑戦をしていかなければ病院の未来はありません。医療センターが地域の皆さまに愛される病院として変わっていくことを期待し、退職後も外から応援していきたいと思っています。

最後に、関係医療機関の益々のご発展と皆さまのご活躍を心から祈念申し上げます。

新 主任部長 紹介

この4月、人事異動に伴って新主任部長からご挨拶申し上げます。

循環器内科
主任部長
有村 賢一

このたび4月1日付で循環器内科主任部長を拝命いたしました有村と申します。長く浦部由利先生が務められてきた後を引き継ぐこととなり、身の引き締まる思いであります。

循環器疾患における研究も日進月歩であり、新たな知見とそれに基づく治療が臨床の現場において次々と実現しております。しかし未だ日本人の死因の第2位を占めており、今後高齢化社会の進行とともにさらなる増加が見込まれています。こうした中で循環器内科のみでなく心臓血管外科との連携、また医師に加え多職種による包括的な介入、他科との連携を行いながら地域の医院、病院の先生方との病診連携のより一層の充実を目指していきます。

確かな技術と科学的根拠に基づいた、心のこもった医療を市民の皆さまに届けることができるよう邁進していきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

呼吸器外科
主任部長
濱武 基陽

この度、4月より呼吸器外科主任部長として当院へ赴任しました濱武基陽と申します。専門は呼吸器外科一般と肺がんに対する薬物療法です。主に肺がんの診療に携わる中で、最新のエビデンスに基づいた質の高い医療を安全に提供することを心掛けています。

肺がんの死亡数は年間約7万人とがん死の中で最も多く、高齢者人口の増加に伴い今後も増加が予想されています。外科治療を通して、少しでも多くの患者さんに治癒を目指した治療を行っていききたいと思います。そのため、各科の先生方や院内のスタッフとともにチーム医療を推進してまいります。

活気あふれるこの病院の一員として、地域の皆様のお役に立てるよう努力していく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。



▶ 植田 圭二郎 (うへだ けいじろう)



- A1.** 消化器内科
A2. 脾臓・胆道疾患
A3. 九州大学病院より赴任することになりました。皆様方の診療に少しでも貢献できるよう努力していく所存です。ご相談させていただくことも多々あると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

▶ 遠藤 翔 (えんどう しょう)



- A1.** 外科
A2. 消化器外科一般
A3. 4月より赴任いたしました遠藤と申します。皆さまのお役に立てるように全力を尽くしていく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

▶ 菊池 克彦 (きくち かつひこ)



- A1.** 整形外科
A2. 整形外科一般
A3. 平成11年卒業の菊池克彦と申します。国家公務員共済組合連合会千早病院から異動してまいりました。骨折・外傷はもちろんのこと、脊椎疾患、手外科疾患を中心に診療しております。よろしくお願いいたします。

▶ 北浦 良樹 (きたうら よしき)



- A1.** 外科
A2. 腹腔鏡手術
A3. 平成14年卒業の北浦良樹と申します。直近の5年間は大阪の病院で勤務しておりました。このたび縁あって北九州市立医療センターで働かせていただくことになり、不安半分、期待半分以上の気持ちです。ハイボリュームセンター勤務自体、これまでに経験していないため当初はご迷惑をおかけすること多いかもしれませんが、なるべく早く皆さまのお役に立てるよう精進しますのでご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

▶ 黒木 理恵 (くろき りえ)



- A1.** 小児科
A2. 小児科一般、小児腎疾患
A3. 子ども達が自分の夢に向かって努力していけるように、周りの方が笑顔になれるように、微力ながらお手伝いしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

▶ 小嶋 浩士 (こじま ひろし)



- A1.** 循環器内科
A2. 循環器内科一般
A3. 4月1日より赴任いたしました循環器内科の小嶋と申します。緊急時の対応だけでなく、地域の皆様の健康向上にもお役に立てるよう努力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

▶ 坂井 寛 (さかい ひろし)



- A1.** 外科
A2. 消化器外科一般
A3. 4月より赴任いたしました坂井と申します。久しぶりに地元に帰って来ました。がん治療の第一線で活躍されている北九州市立医療センターに勤務させていただくことを大変うれしく思っております。外科医として皆さまのお役にたてるように精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

▶ 新川 智彦 (しんがわ ともひこ)



- A1.** 外科
A2. 消化器外科一般
A3. 4月から赴任いたしました新川と申します。外科医として地域の皆様のお役に立てるよう全力で頑張りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

▶ 鈴木 雄三 (すずき ゆうぞう)



- A1.** 呼吸器外科
A2. 呼吸器外科一般、肺がん治療
A3. 4月より赴任しました鈴木と申します。地域の皆さまに寄り添った診療を心掛けています。まだまだ未熟者ですが、精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

▶ 高山 幸久 (たかやま ゆきひさ)



- A1.** 放射線科
A2. 放射線診断一般・腹部インターベンション・MRI
A3. 2月より赴任しました。高校まで北九州で生活していましたが、北九州での勤務は初めてです。よろしくお願いいたします。

▶ 田中 幸一 (たなか こういち)



- A1.** 小児科
A2. 新生児
A3. 初期研修では大変お世話になりました。少しは成長が見せられれば、恩返しができるばいいなと思います。小児・新生児のご相談も気兼ねなくどうぞ。

▶ 田中 厚生 (たなか あつお)



- A1.** 放射線科
A2. 神経放射線科学
A3. 神経分野に限らず皆さまのお役に立てるよう努力する所存です。

▶ 田中 琢磨 (たなか たくま)



- A1.** 消化器内科
A2. 脾胆道系
A3. 今年4月から消化器内科に所属となりました。閉塞性黄疸に対する内視鏡処置や経皮的処置の他、脾がんや胆管がんを専門的に診ています。早期の対応と処置、がんに対しては早期の治療開始をモットーとしています。どうぞよろしくお願いいたします。

▶ 田中 義将 (たなか よしまさ)



- A1.** 消化器内科
A2. 消化器内科一般
A3. 九州労災病院より赴任いたしました。地域の皆さまに貢献できますように頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

▶ 塚原 茂大 (つかはら しげひろ)



- A1.** 泌尿器科
A2. 泌尿器科一般
A3. 今年度当病院で勤務いたします泌尿器科の塚原茂大と申します。泌尿器科として働き始めて今年で4年目になります。未熟者ではございますが他科の先生方からのコンサルトも誠心誠意対応させていただきます。何卒よろしくお願いいたします。

▶ 藤野 稔 (ふじの みのる)



- A1.** 外科
A2. 乳腺外科
A3. このたび外科で赴任いたしました藤野です。H15年に九大第一外科へ入局し、今年で14年目の春を迎えました。前任地の佐賀県医療センター好生館では乳腺外科を学んでおりました。こちらでも引き続き乳腺外科の修練を積んでいく所存です。症例数が多いこの病院で、少しでもお役に立てるよう頑張ります。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

▶ 藤原 ありさ (ふじわら ありさ)



- A1.** 産婦人科
A2. 周産期
A3. 北九州市での勤務は7年ぶりです。周産期を専門としていますが、産婦人科全般の診療にあたらせていただきます。よろしくお願いいたします。

▶ 本村 有史 (もとむら ゆうし)



- A1.** 放射線科
A2. 放射線治療
A3. 4月から九州大学病院より赴任しました本村と申します。皆さまのお役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

▶ 松口 俊央 (まつぐち としひろ)



- A1.** 整形外科
A2. 外傷
A3. 明るく元気に頑張ります。困った時はいつでも連絡ください。

▶ 水谷 孝弘 (みずたに たかひろ)



- A1.** 消化器内科
A2. 消化器内視鏡
A3. 4月1日付で済生会福岡総合病院より赴任となりました。北九州で仕事をするのは初めてで慣れるまでご迷惑をおかけすると思いますが、少しでもお役に立てるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

▶ 溝口 孝 (みぞぐち たかし)



- A1.** 整形外科
A2. 整形外科一般
A3. 3年ぶりに北九州に赴任しました。微力ながら北九州の医療を支えていけるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

▶ 三井 敬一 (みつい けいいち)



- A1.** 小児科
A2. 循環器
A3. 7年振りに市立門司病院から医療センターに戻りました。小児科医局員の平均年齢を上げてしまい、済みません。久しぶりで分からないことも多いかと思っておりますので、色々教えてください。よろしくお願いいたします。

▶ 峰 真理 (みね まり)



- A1.** 病理診断科
A2. 病理診断一般
A3. 九州中央病院より赴任いたしました峰と申します。以前も4年間お世話になっていたこともあり、12年ぶりの赴任で大変懐かしき思います。正確な診断を迅速に行えるよう心掛けて頑張りますので、よろしくお願いいたします。

▶ 米倉 隆介 (よねくら りゅうすけ)



- A1.** 心臓血管外科
A2. 心臓血管外科全般
A3. 患者さんが自分の家族だったときに、自分がどうしてほしいかをいつも考えながら、診療を行っています。どうかよろしくお願いいたします。

▶ 米澤 政人 (よねざわ まさと)



- A1.** 放射線科
A2. 循環器(心臓)画像診断、胸部画像診断
A3. 診療に役立つ読影を心掛け日々の業務を行っています。他科の先生方や連携病院様からいただいた適切な診療情報をもとに、より良い画像診断を行っていきたく考えていますので、よろしくお願いいたします。

Topics | トピックス |

サンウルブズ来たる

サンウルブズのフィロ・ティアティアヘッドコーチ、共同キャプテンのエドワード・カーク選手、立川理道選手が闘病中の入院患者さんたちを励ますために2017年2月12日来院して下さいました。サンウルブズとはラグビー日本代表に準じた日本唯一の純粋なプロラグビーチームで、昨年からスーパーラグビーに参戦しています。スーパーラグビーとは2015年ラグビーワールドカップで4強を占めたニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ、アルゼンチンのプロラグビーチームがしのぎを削る世界最高峰のリーグ戦です。

2月18日にミクニワールドスタジアム北九州のこけら落としで行われるスーパーラグビーの前哨戦サンウルブズvsトップリーグオールスターズのために2月12日北九州入りし、そのまま慰問に当院へ駆けつけて下さいました。

最初にさい帯血移植後17日目の50代女性白血病患者の無菌個室へ案内しました。エドワード・カーク選手は「握手の力が強い、これなら病気を乗り越えられる。私の母も乳がんを抗がん剤で乗り切ったから貴方も絶対大丈夫だ」と励まして下さいました。患者さんとお母さんは「こんな機会は普通には絶対になく幸運でした、勇気をもらえました」と大変喜んでおられました。次にさい帯血移植後16日目の70代男性白血病患者の無菌個室へ行っていただきました。今度はティアティアヘッドコーチが「私の父は前立腺がんを治療で乗り切った、貴方は私の父と比べてずっと若く見える、必ずよくなる」と仰られました。その患者さんは「孫の成長を見届けるのが目標だった。皆さんのご訪問でもっともっと頑張れる、今日のことは一生の宝です」と、闘病の意欲をさらに堅固にされたのでした。



▲ロビーにて、たくさんの患者さんに集まっていただきました。間の女性は通訳の大機幸恵さん

副院長 大野 裕樹



▲応接室にて／左からフィロ・ティアティアヘッドコーチ(192cm, 121kg)、立川理道選手(180cm, 95kg)、大野(166cm, 75kg)、山本 前看護部長(160cm, ?kg)、エドワード・カーク選手(191cm, 108kg)

その後ロビーに移動し、集まった100人余りの患者さんと対面しました。とにかく皆さん3人の筋肉と体の大きさに度肝を抜かれていました。3人から励ましの言葉をいただき、ティアティアヘッドコーチのクイズで大いに盛り上がり、記念ボールを我先にと貰っていました。ラグビーをよく知らないと言っていた患者さんもヘッドコーチ、選手たちと交流して「こんないい人たちがいるんだ、ラグビーが好きになった」と喜ばれていましたし、別の方は2月18日の試合のことを初めて知り、「チケットはまだある?退院して見に行きたい」と仰っていました。患者の皆さんはご自分の病気を忘れたかのような笑顔で病棟に帰って行かれました。3人の人柄の素晴らしさに患者さんも私たちスタッフも本当に感動しました。ティアティアヘッドコーチのご提案での病棟の慰問は大盛況で大成功でした。

私自身身合の入った熱狂的なBrave Blossoms(ラグビー日本代表の愛称)とSunwolvesのファンで、この話をいただいたとき天にも昇る気持ちでした。最後にサプライズでSunwolvesの選手全員のサイン入りのジャージをいただいたとき、本当にこんなことがあるんだ、これこそ「一生の宝物だ」と実感しました。Suwolvesの皆さんに感謝するとともに今後もいろいろなところでこのような活動を続けていかれること願い、そしてサンウルブズのスーパーラグビーにおける一つでも多くの勝利を願っております。



▲サンウルブズ選手全員のサイン入りファーストジャージ 一生の宝物です。

看護の広場

4階北一般病棟



4階北一般病棟 看護師長 前田 由美

4階北一般病棟は外科17床、呼吸器内科5床の22床の混合病棟です。看護師14名(看護師長1名、主査2名)と夜勤専従看護師2名と看護補助者1名で看護を提供しています。病床数は他病棟と比べて半分ですが、人数の少ない分みんなで力をあわせてまとまりのある病棟になっています。患者さんの希望は何なのか、私たちに何ができるのかを日々考えて看護を行っています。

患者さんからクレームをいただくこともありますが、感謝の声もたくさんいただきました。なかでもとてもうれしかったのは入院中、イレウスでお腹が張って苦しい患者さんにどうしたら少しでも楽になれるのかと主治医や看護師と一緒に考え、悩む毎日でしたが、「入院中一番きつかったときに一晩中おなかをさすってくれた看護師さんに感謝しています。これぞまさしく手厚い看護です。」と声をいただいたときです。

また、患者さんが家族旅行をとても楽しみにされ希望されていたので、症状を少しでもコントロールしながら



ら家族旅行ができるようにと医療連携室看護師とも関わりながら退院準備を進めていきました。そして、無事退院の日を迎えられ、楽しみにされていた旅行にも行かれました。外来にこられたときに「旅行に行ってきた」と笑顔で病棟に元気な姿を見せていただいたときはスタッフ全員で喜びました。

私たち看護師は患者さんからいただいたあたたかい言葉を励みに日々頑張っています。これからも患者さんに寄り添った看護が提供できるようにスタッフ一同努力していきたいと思っています。



▲病棟医長とスタッフ



▲乳がん情報提供センター

登 録 医 師 介 紹

+

INFORMATION

所 在 地：門司区東門司2丁目4-18

院 長：眞鍋 祐美子

電話番号：093-321-0541

診療科目：内科・小児科

F A X：093-321-0544

ペインクリニック

あきたけ医院

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	×
14:00～18:00	○	○	×	○	○	×	×

※土曜日は午後1時まで

アピールポイント

曾祖父が明治38年に門司港で内科医院を開業し今年で通算112年目となります。現在は、母と二人で、内科小児科麻酔科の外来診療と病児保育室、訪問診療を行っております。特に末期がんの患者さんが、ご自宅で過ごしたいとご希望される場合に、お役に立てるようスタッフと子ども日夜精進しております。

市立医療センターへの一言

紹介患者さんの共同診療の際には、主治医の先生を始め連携室の方にはいつも大変丁寧な対応をいただき感謝しております。患者さんは入院中に一度でもお顔を拝見しに行くととても喜んでくださいます。様子もよくわかり退院後の診療にとっても役立っております。

+

INFORMATION

所 在 地：行橋市西宮市5丁目1-10

院 長：内田 克彦

電話番号：0930-23-0155

診療科目：産婦人科

F A X：0930-23-1898

医療法人 ユーエムシー内田産婦人科医院

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	×
14:00～19:00	○	○	○	×	○	×	×

※火・水曜日は午後2時～5時、月・金曜日は午後3時～7時、土曜日は午前9時～午後1時まで

アピールポイント

昭和5年に祖父が開業した産院を、平成元年に三代目として継承しました。出産はできるだけ自然分娩で、母乳育児を強力に支援しています。産婦さんの身になって頑張る大勢のスタッフが自慢です。

市立医療センターへの一言

産科、婦人科とも異常時には24時間いつでもすべて迅速に受け入れて適切に対応していただけるので、大変心強く感謝しております。

これからも北九州地域の産婦人科にとって最強最終の砦としてさらなるご発展を祈念します。

医療連携室だより

平素より、当院の地域医療連携につきまして、ご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

北九州市立医療センターでは4月の人事異動に伴い、新たな体制で平成29年度を迎えました。

医療連携室では、新連携室長に副院長岩下俊光が就任しました。地域医療連携推進担当部長に統括部長尼田覚、地域医療連携推進部長に長瀬国利を迎え、事務職員1名も増員し総勢15名体制となりました。

4月10日より新たに外来診察の予約制を開始し、今後ますます地域の先生方や患者さんとの連携機能を充実させてまいりたいと思っております。

がん相談支援に関しては、がん相談員堀真由美を新たに迎え、相談業務やセカンドオピニオン・がん地域連携パスの推進、がんサロン運営等を行ってまいります。

地域医療連携推進担当係長 佐藤 美登里

新メンバー紹介

医療連携室長
いわした としみつ
岩下 俊光

地域医療連携推進担当部長
あまだ きとる
尼田 覚

地域医療連携推進部長
なが せ くに とし
長瀬 国利

地域医療連携推進担当課長
やまもと とも み
山本 智美

がん相談支援センター 看護師
はり ま ゆ み
堀 真由美

事務
かわ はた よう こ
川畑 陽子

【医療連携室】

TEL 093-533-8660(直通) FAX 093-533-8718 <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>
E-mail:byou-iryuu-renkei@city.kitakyushu.lg.jp ※患者さんのご紹介は、E-mailでは受け付けておりません。

編集
後記

当院では4月1日付で病院長が豊島里志から中野徹にバトンタッチされ、総括副院長が小野稔から眞鍋治彦に交代、副院長、統括部長にも新しい顔ぶれが加わりました。一方看護部長も山本智美から大津博恵に交代となりました。新体制でスタートしております。引き続きよろしくお願いいたします。

なお「輪」の編集委員長も次号より山野から尼田に交代します。担当した第53号から65号まで3年少々、誠にありがとうございました。そして次号からも引き続きご愛読いただければ幸いです。

(山野)

【表紙写真について】

夜になると病院の正面玄関前に緑色の灯が2つとあります。当院は平成3年5月北九州市立小倉病院から北九州市立医療センターに生まれ変わりましたが、その時作られたこの灯のガラスの中には鉄粉が混ぜられており、鉄の町北九州を象徴する病院との製作者の思いが込められています。それから26年間市立医療センターの歩みをじっと見守ってきました。

広報委員会「輪」編集委員

山野裕二郎 山方伸茂 山本智美 高瀬真弓 佐藤美登里
高見将彦 天野健司 中山俊輔

9

10